

# 参考事例 「福岡市中央卸売市場 青果市場（ベジフルスタジアム）」

## 1 施設整備の概要

- 整備期間（工期） 平成25年度～平成27年度（構想は平成20年度より開始）
- 開場年月 平成28年2月（市内三カ所の青果市場を統合し新築移転）
- 建設費 約199億円（うち国交付金約67億円）
- 用地費 約164億円（面積は約150,000㎡）
- 主体構造 卸売場西棟 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）＋鉄骨造屋根 2階建て  
卸売場東棟 鉄筋コンクリート造（RC造）3階建て  
青果市場会館 鉄筋コンクリート造（RC造）3階建て
- 主要施設の規模  
延床面積 約103,000㎡

### 旧施設との比較

区分	計画面積	旧青果市場の面積	増減
卸売場	11,786㎡	11,352㎡	434㎡
うち定温卸売場	9,946㎡	1,402㎡	8,544㎡
仲卸売場	11,124㎡	6,086㎡	5,038㎡
買荷保管積込所	18,181㎡	4,976㎡	13,205㎡
冷蔵庫	8,750㎡	5,882㎡	2,868㎡
関連事業者店舗	3,235㎡	3,735㎡	-500㎡

## 2 施設整備の特徴

- 取引形態に併せて施設を区分
  - 卸売場西棟…相対取引を中心とした大量物流に対応
  - 卸売場東棟…セリを中心とした小売業者等に対応
- 効率性や安全性を考慮したコンパクトな施設計画
  - 入荷用通路から買荷積込所までを一つの建物に集約（物流動線の明確化及び短縮化）
  - 入荷から配送までの流れ（物流動線）が効率的になるように配置
  - 冷蔵庫（物流センター：業界自主整備施設）を卸売場に隣接させ、3カ所に分散して配置
  - 卸売場棟西棟に10トントラック20台が同時に荷下ろし可能な入荷用通路を配置（幅員20m、延長220m）
- コールドチェーンの充実
  - 卸売場の大半を密閉式の定温卸売場（業界自主整備）として整備
- 市場会館棟と多目的広場を一体的に配置
  - 市場会館棟内の関連事業者店舗に接続したイベント開催可能な多目的広場を整備
- 低炭素化・環境保全の取組
  - フォークリフト、ターレット用の共同充電設備を設置
  - 大規模太陽光発電設備の設置
  - 生ゴミ再資源化
- 入退場管理システムの導入
  - IDカードを車内からかざすことで自動的にゲートが開くコインパーキング方式のシステムを採用
- 自然災害への対策
  - 主要施設の高い耐震性を確保
  - 集中豪雨にも対応できる雨水排水計画（雨水一時貯留槽の設置等）

## 3 施設配置

